

再発見！ 橋から見える盛岡の魅力



歴史ある擬宝珠をいただく橋
盛岡のまちづくりは
ここから始まった

盛岡城 つなぐ 奥州街道



現在の上の橋

初代盛岡藩主・南部信直が、時の天下人である豊臣秀吉の許可を得て盛岡城の築城を開始すると共に、城下町の整備が進められたここ盛岡。北上川・中津川・雫石川が合流する要衝の地につくられたこの町には、各所に橋が架けられていきます。その中で江戸時代に架けられた最初の橋が「上の橋」であり、奥州街道の中にある重要な橋のひとつでした。欄干には「慶長十四年己酉年 十月吉日 中津川上之橋 源朝臣 利直」の銘が刻まれた青銅製の擬宝珠を取り付けられています。このように橋の擬宝珠に銘が刻まれる例は全国的にも希少であり、美術品の海外流出の

防止を目的とした国の重要美術品に認定されています。幾度も再建されてきた上の橋ですが、その場所と擬宝珠は慶長14(1609)年以来変わりありません。私たちにとって日常的な風景になっていますが、約400年前と同じように擬宝珠を眺めながら橋を渡ることができるのは、実はとてもすごいことなのです。



もりおか歴史文化館
学芸員 小西 治子さん

周辺情報

上の橋際のイチョウ

市内の紅葉が終わるころ、11月中旬に黄色く色づくイチョウの大木。推定樹齢120年で、市の景観重要樹木となっている



上の橋の青銅擬宝珠。盛岡城以前の居城であった三戸城下には、南部家にとって由緒ある黄金橋があり、南部利直はその橋の擬宝珠を鑄造して上の橋の擬宝珠をつくったといわれる

上の橋 DATA 完成/昭和10年 形式/鉄筋コンクリート桁 橋長・幅員/54×12.8m



都南地域の東西をつないだ
住民念願の橋

地域 つなぐ 願い

昭和30年に飯岡村・見前村・乙部村が合併して都南村が誕生しましたが、村内の北上川に橋が架かっていなかったため、乙部地区と見前地区を行き来するには、迂回して明治橋を渡るか、渡し舟を使うしかありませんでした。そのため一時期、村役場も村内ではなく盛岡(菜園や南大通)に置かれていました。渡し舟は昭和40年代後半まであったそうです。昭和37年に徳田橋が開通して乙部地区と矢巾町徳田地区が往来できるようになり、昭和52年に東北自動車道、昭和57年には東北新幹線が開業しますが、それでもまだ北上川には村の東西を結ぶ橋がありませんでした。



見前南地区公民館
館長 作山 文康さん

そして、昭和60年に都南中央橋、昭和62年には都南大橋が完成したことで、ようやく長年の村民の念願が叶いました。見前地区と乙部地区の交流も盛んになり、生活の便も向上しました。都南大橋の開通により三本柳地区の開発が進み、事業所や商店が集積するようになりました。今では、盛岡南インターチェンジから都南大橋を通過して宮古方面へ通じる道路が整備され、交通の大動脈になっています。



藤原 幸行さん(西見前)

都南大橋 DATA 完成/昭和62年 形式/鋼桁 橋長・幅員/416.5×9.5m(平成7年拡幅後21m)



朝日に照らされる都南大橋

農閑期には渡し舟に馬や馬そりに乗せて、乙部方面に薪や茅などを取りに行っていました。徳田橋が架かって自動車も普及する頃までは、渡し舟を利用していましたね。大変でしたが生活のためには川を渡る必要がありました



都南歴史民俗資料館収蔵
昭和32年撮影
昭和47年頃まで渡し舟が行われていた三本柳渡船場の様子



周辺情報
盛岡花火の祭典

都南大橋下流の北上川河川敷で開催される花火大会。盛岡・都南合併10周年を迎えた平成14年から現在の規模となり、盛岡を代表する花火大会として親しまれている

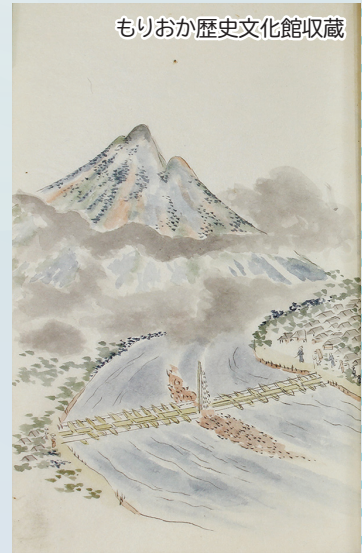


かつて舟運で栄え
多くの人々が行き交った
盛岡城下の玄関口

舟運 つなぐ 物流



現在の明治橋



もりおか歴史文化館収蔵



菅江真澄「委波底夜渡」(1788年)に描かれた新山舟橋。江戸～明治期には「盛岡八景」に数えられるなど、盛岡の代表的な景色であった

舟運の歴史を現代に伝える取り組みとして、令和3年には明治橋付近と開運橋付近に船着き場が整備され、木造船の乗船体験などのイベントが行われている

▼明治21年創業の老舗和菓子店。舟運でにぎわった時代、近くにおいしいまんじゅうを出す茶屋があったそうで、そこから名付けた「舟ばし茶屋まんじゅう」が名物のひとつ



住所：南大通三丁目12-48
☎622-4888
営業時間：11時～17時(日・月・火曜定休)

明治橋 DATA 完成/昭和7年 形式/鋼桁 橋長・幅員/170.7×11.8m

の米蔵を、現在「下町史料館」として活用し、舟橋ゆかりの史料や庶民の生活用具など約3000点を収蔵しています。舟橋に実際使われていた木の柱のひとつも展示しています。



下町史料館
(御蔵管理委員会)
千葉 久子さん

下町史料館(南大通三丁目12-30)
●定期開館：4月～10月の土・日曜、10時～16時(平日や11月～3月も電話予約で見学可能)
●予約・問い合わせ：☎654-2468

新山舟橋のたもとにあった盛岡藩



盛岡 つなぐ 世界



紅葉の太鼓橋

ニューヨーク・タイムズ紙に掲載
世界に発信された盛岡城跡公園の美しさ

アメリカのニューヨーク・タイムズ紙が発表した「2023年に行くべき52カ所」にロンドンに続く2番目に選ばれた盛岡。そのとき紙面に掲載されたのが盛岡城跡公園の鶴ヶ池と太鼓橋の風景です。美しい写真

とともに盛岡の魅力が世界に発信され、たくさんの旅行者が訪れるきっかけとなりました。新緑や紅葉など、季節によってさまざまな表情が楽しめる盛岡城跡公園でも特に人気のスポットです。

市長コラム

盛岡のまちづくりは、藩政時代から川と橋が重要な役割を持っていました。橋の一つ一つに歴史があり、そこに暮らす人々の物語があります。また、橋から眺める風景は私たちの心を和ませてくれます。橋を通して見えてくる盛岡の歩みを感じながら、改めてまちの魅力を見つけてみませんか。



盛岡市長 内館 茂

私の好きな橋

毘沙門橋



中津川に架かる毘沙門橋は、幼い頃からよく歩いた思い出のある橋。ここから眺める景色は、いつでも私を初心に返らせてくれます。

